

【地域の概要】

- 当市の中心的な水田地域であり、東西に優良農地が広がっている。
- 複数団体や個人事業者が借り受けにより営農しているが、集団化には至っていない。
- 優良な農地であることから、個人による営農も多い状況

①取組開始前の状況や課題

○営農団体の構成員の高齢化

地元出身の農業者が中心となった営農団体（任意組合）により、集約的・集団的に農業に取り組んできたが、構成員の高齢化により近年徐々に営農規模の縮小が進行していた。

○営農団体撤退に伴う受け手検討会

今年度をもってこの団体の主要な農地である蜂屋・加茂野地区からの大規模（約13ha）な撤退が決まったため、農地所有者や地元からJAや農業委員会へ今後の営農についての相談が寄せられた。

②取組内容

○関係者による検討会（令和5年11～3月）

JAが地区の中心的な農業者・営農団体に状況を説明し、新たな耕作者に農地の再配置を検討することとなった。

農業者・営農団体・担当地区農業委員・最適化推進委員・県職員・隣接自治体農政担当及び市農政担当職員・農業委員会事務局職員による検討会が3度開催され、新たな営農者を決定した。

○農地所有者との調整（令和6年1月～）

スムーズな新規営農者への再配置のために、撤退団体から農地所有者に対し、営農者の変更のお知らせが通知されている。

農地の中には、撤退団体との契約以降に、所有者が変更した農地があった。現在の農地管理人や相続人を明らかにするため、担当地区の農業委員が地元で聴き取り調査など実施し、営農者変更が進むよう活動している。



▲検討会の様子

③今後の展開と方向性

○農地中間管理事業による新たな営農者への集積・集約

全ての農地所有者の確定後、農地中間管理事業による利用権設定を予定している。

撤退団体の構成員は地元出身者が中心であり、通学路の除草等、地元への貢献度が高かったことから、新たな営農者と地元との関わり方が重要になる。